

第2章 名古屋のまちの成り立ち

名古屋は、中世以前から熱田社と湊まちとして栄えていた「熱田」のまちと、徳川家康によって築かれた日本最大級の近世城郭「名古屋城」とその城下町が骨格となって拡大したまちです。

明治維新後は、運河・鉄道等のインフラ整備や産業振興が図られ、近代産業都市へと変貌し、その後の戦災や伊勢湾台風などの被害を乗り越え、世界に冠たる産業文化都市として今も発展を続けています。

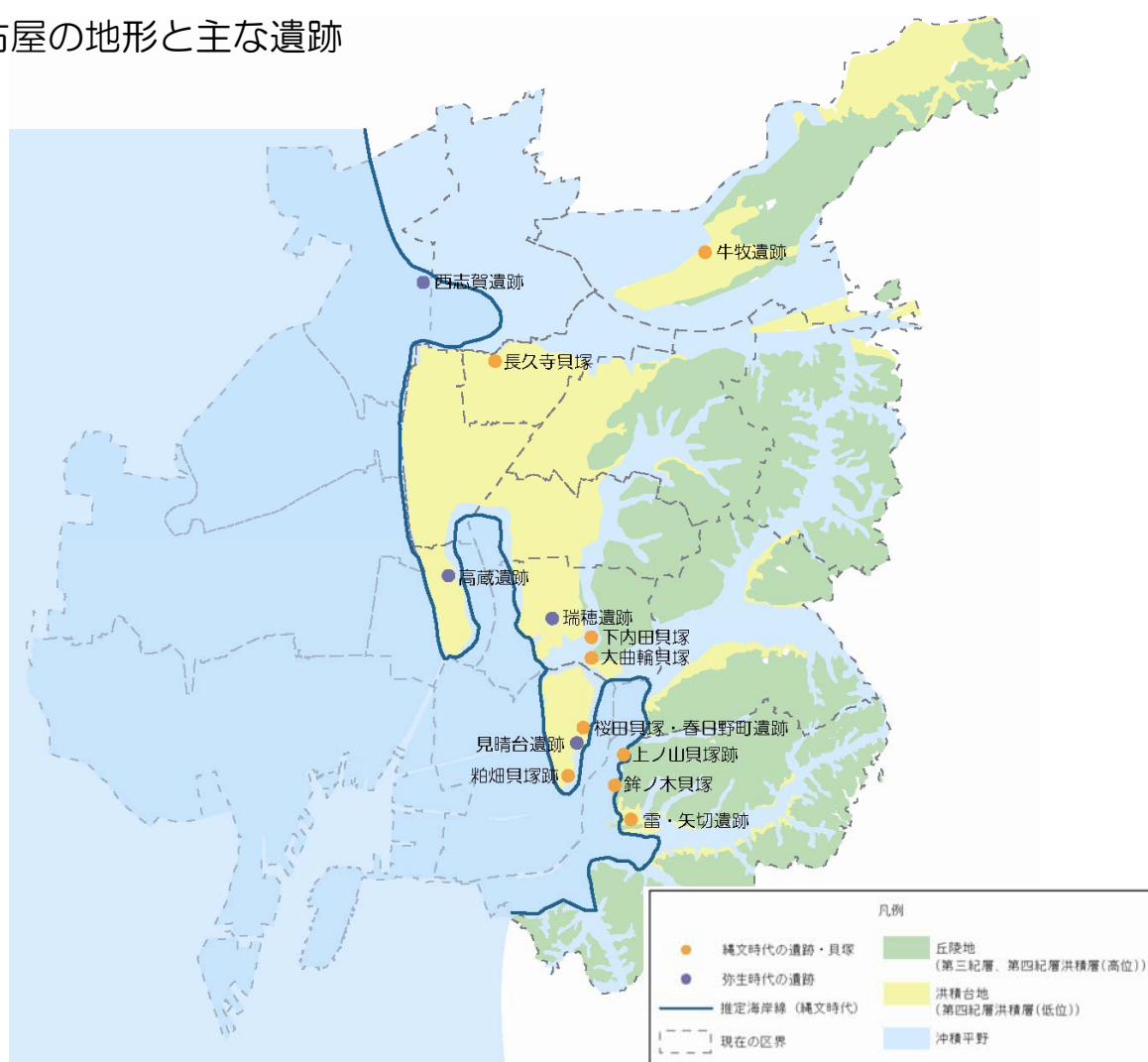
※名古屋のまちの成り立ちについては、市史などにに基づき記載しています。

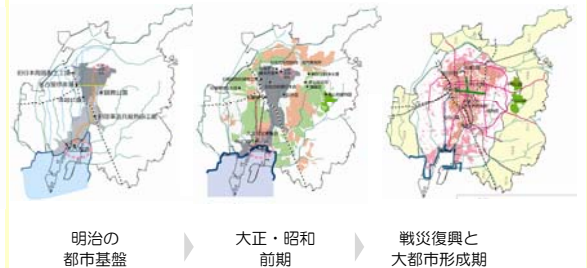
1 尾張名古屋の骨格形成期

(1) 縄文・弥生時代の地形と集落の形成

現在からおよそ1万年～2万年前には、名古屋西南部は海となっており、現在の名古屋城や都心周辺部分も海岸に面していました。ここに生きた古代人の様々な営みは、台地の各所に残る貝塚や遺跡から確認されています。

名古屋の地形と主な遺跡





◆地形

- 縄文時代早期後半から前期（今から約 6,000～6,500 年前）にかけての頃の海面は、現在より 2m 前後は高かったといわれています。その頃の海岸線は、名古屋台地に沿ってゾウの鼻のような形をしていました。

◆人々の営み

- 名古屋の地に人々が住み始めたのは、今からおよそ 3 万年前の旧石器時代であったと言われています。その後、およそ 1 万 2 千年ほど前に始まった縄文時代には、土器と弓矢を持った人々が次第に定住を始めます。
- 緑区上ノ山、鉾ノ木、南区粕畑、瑞穂区大曲輪などにある貝塚の存在により、台地や丘陵の奥部まで海が浸入していたことがわかりました。大曲輪貝塚は国の史跡に指定されています。
- 縄文時代が終わりを告げる約 3000 年前のころには守山区牛牧、緑区 ^{いかすち} 雷・矢切などに大規模な集落が誕生しました。その後西日本から名古屋に弥生文化が伝わると西区西志賀付近に最初の集落が営まれました。
- やがて弥生人は名古屋台地縁辺の高蔵、瑞穂周辺に居住空間をひろげ、大小の集落を形成しますが、近畿地方から押し寄せてきた勢力（大和王権）に次第に組み込まれていきます。



縄文時代の土器



縄文時代の土偶

5世紀から7世紀にかけて、「尾張氏」が東海地方最大の豪族として台頭していました。尾張氏の墳墓とされる東海地方最大の断夫山古墳や尾張氏の祀神をまつた熱田社がつくられ、以後熱田は社を核に次第に発展していきました。また、守山区上志段味、緑区大高に残る古墳や古い神社の存在からも、こうした地域が尾張氏ゆかりの地であることがわかります。

8

◆古代の名古屋

- ・大和王権との強力な関係を築いた豪族「尾張氏」が勢力を拡大し、東海地方最大の断夫山古墳などを造りました。
- ・伝承では三種の神器の一つ草薙の劔をまつたのが熱田神宮の起源とされています。
- ・5世紀の中頃、東部丘陵（現在の千種区名古屋大学周辺）で焼き物（須恵器）の生産が開始され、以後、鎌倉時代まで我が国の陶器生産の中心地となりました。
- ・645（大化元）年、大化の改新で隋・唐の律令制に倣った中央集権律令国家体制が成立し、体系的な土地支配体制が確立しました。中島、海部、^{あま}葉栗、^{はぐり}丹羽、^{かすかべ}春部、山田、^{あいち}愛智、^{ちた}智多の八郡からなる「尾張国」が誕生し、この地方の政治の中枢である国衙は中島郡の稻沢に設置されます。
- ・927（延長5）年に延喜式神名帳^{えんぎしきしんめい}という全国の神社の一覧表がまとめられました。この地方は熱田社を始め、熱田社の摂社で宮貴媛命^{みやきひめのみこと}を祭神とする氷上姉子神社や古代社会の氏神としてまつられた尾張戸神社など20社以上が掲載されています。

◆武家政権の誕生

- ・平安時代には各地に荘園が誕生し、名古屋では那古野荘、山田荘、富田荘などが確認され、現在までその名を残している地名があります。1192（建久3）年に鎌倉幕府を開いた源頼朝の母は熱田神宮大宮司の娘であり、宮司の館があった現在の誓願寺付近が頼朝の出生地とする説があります。
- ・政治の中心地・鎌倉と文化の中心地・京都を結ぶ鎌倉街道は国内最大の幹線ルートとして発達を遂げました。萱津などの宿駅は、交通・流通の拠点として発展しました。
- ・その後鎌倉幕府が倒れ、足利尊氏が京都に室町幕府を開きました。尾張国は1400（応永7）年以降、^{しば}斯波氏が守護に任命され、その代官として守護代織田氏が国内を支配しました。



断夫山古墳



熱田社（熱田神宮）



氷上姉子神社



尾張戸神社



東山H101号古窯跡

(3) 武将の活躍期 ～戦国の争乱と尾張～

室町幕府の没落によって各地で争乱が起こり、東西の要衝の地であった尾張は織田信長、豊臣秀吉、前田利家など、後に活躍する幾多の戦国武将を生み出しました。名古屋周辺は天下統一の舞台となり、城・砦・古戦場跡などが残っています。

主な城・砦跡・古戦場と武将ゆかりの地など



凡例	
△ 主な城跡	○ 出生地(伝)
▲ 主な建築物	○ 主なゆかりの地
— 推定海岸線(中世末期)	--- 現在の区界
	○ 古戦場

◆武将

- ・織田信長、豊臣秀吉、前田利家、加藤清正など戦国時代に活躍した武将がこの地から数多く輩出しました。

◆城・砦跡・古戦場

- ・尾張各地に割拠した群雄が相争うようになり、城や砦を築いて合戦が繰り広げられました。
- ・今川那古野氏が築いた那古野城、織田信長の父信秀が築いた古渡城、末盛城などがあります。
- ・名古屋周辺を舞台にした合戦場には、織田信長と弟・信勝（信行）との「稲生原」、大高城跡・鷺津砦跡・丸根砦跡（国指定史跡）などがある織田信長と今川義元との「桶狭間」、豊臣秀吉と徳川家康との「小牧・長久手」などの古戦場跡がよく知られています。

◆建造物

- ・室町時代に建てられた市内最古（1536(天文 5)年）の建築物である観音寺多宝塔（国指定文化財・荒子観音）をはじめ、龍泉寺仁王門、富部神社本殿（いずれも国指定文化財）など、17世紀初頭の建造物も残されています。



大高城跡（大高城跡公園）



末盛城跡（城山八幡宮）



古渡城跡（東別院）



観音寺多宝塔
（荒子観音）



龍泉寺仁王門



富部神社本殿

(4) 名古屋城築城と城下町 ～城下町の形成と街道沿いの町並み～

1610年、戦国の乱世を制した徳川家康は、名古屋台地の北端に、日本最大級の近世城郭名古屋城を築城し、尾張の中心であった清須城下町を名古屋へ移しました（清須越）。その後、尾張藩歴代藩主の治世によって、現代に続く名古屋の文化の礎が築かれていきました。

江戸時代の都市構造



◆城下町

- ・名古屋城の築城に合わせ、地割（武家地、社寺地、町人地の区画割）と町割（清須各町の移転先の割当）がおこなわれました。（清須越、1610年開府）
城下町の入口である橘町、赤塚町、樽屋町の3ヶ所に大木戸が設けられ、その内が御城下とされました。
- ・城下町の中央、城の南に近代都市名古屋の原型となる、碁盤割の町割が形成され、主に町人地を配置しました。町民の職業などを示す町名が多く付けられました。
- ・城を起点に碁盤割を囲む東・南・西に武家地を配置し、城から離れた東と南の街道沿いに社寺地（寺町）を配置し要衝を固め、城下町を築きました。
- ・名古屋城の築城と同時に城郭の西から熱田の湊まで、福島正則を総奉行に堀川の開削が行われました。堀川は、城下町への生活物資の運搬水路として、重要な役割を担いました。堀川沿いの四間道には、今でも蔵などが建ち並び町並みが残っています。



名古屋城（焼失前）



四間道の町並み

◆街道・宿

- ・東海道の宮の宿（熱田）と城下町は本町通（熱田道）と堀川で結ばれました。熱田は城下に組み込まれず、全国最大の宿場町として繁栄しました。
- ・全国を結ぶ東海道、中山道など五街道と宿駅を幕府が定め、尾張では、その付属街道として美濃街道、佐屋街道が通っていました。また、近隣諸国を結ぶ街道として木曾街道を尾張藩が決めました。伝馬町通と本町通との交差点には高札場が設けられ、札の辻と呼ばれ、名古屋からまたは名古屋への距離の基準点となりました。
- ・緑区の鳴海・有松、中村区の岩塚、中川区の万場、西区の中小田井など、旧街道沿いに町並みが残っています。また、笠寺には、市内唯一の一里塚が残っています。



有松の町並み

◆新田開発

- ・尾張藩や豪商、豪農などによって、干拓による新田開発が盛んに行われました。熱田新田、熱田前新田などが代表的なものです。

◆文化

- ・東照宮祭などの神社の祭礼、オマントウ、山車、棒の手などの伝統行事が残っています。
- ・大須・門前町から橘町にかけての仏具・仏壇、有松・鳴海の絞りなど、江戸時代からの伝統産業が残っています。



旧東海道一里塚（笠寺）

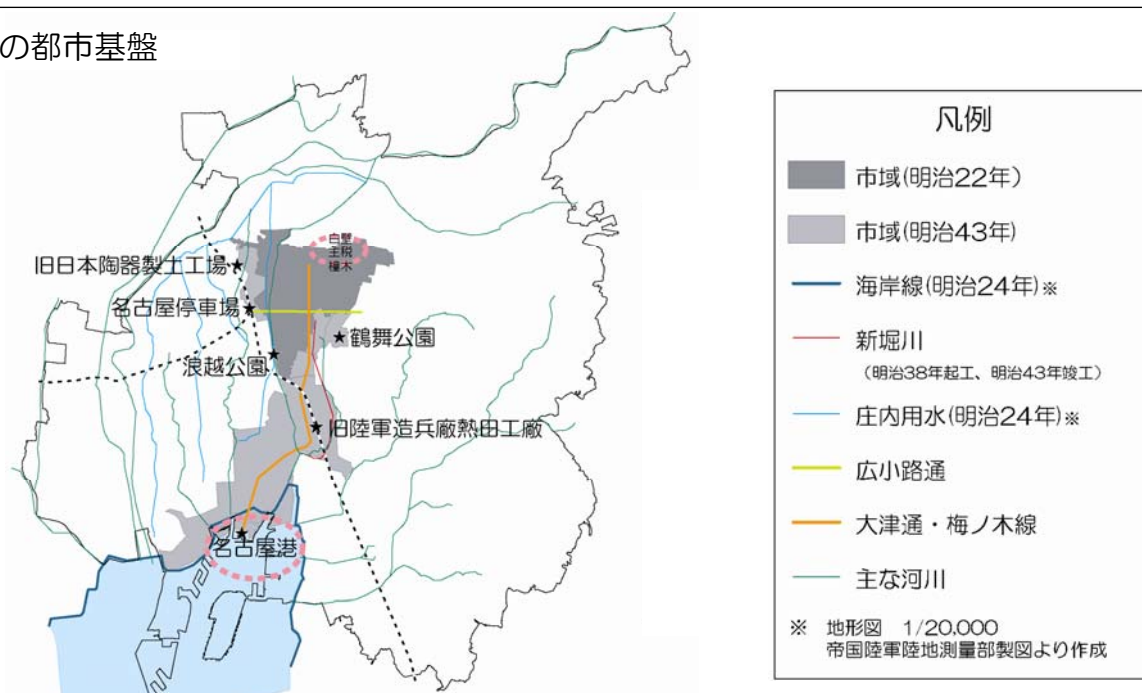
2 世界に誇る産業文化都市の確立期

(1) 近代産業都市形成期 ～ものづくり産業文化都市へ～

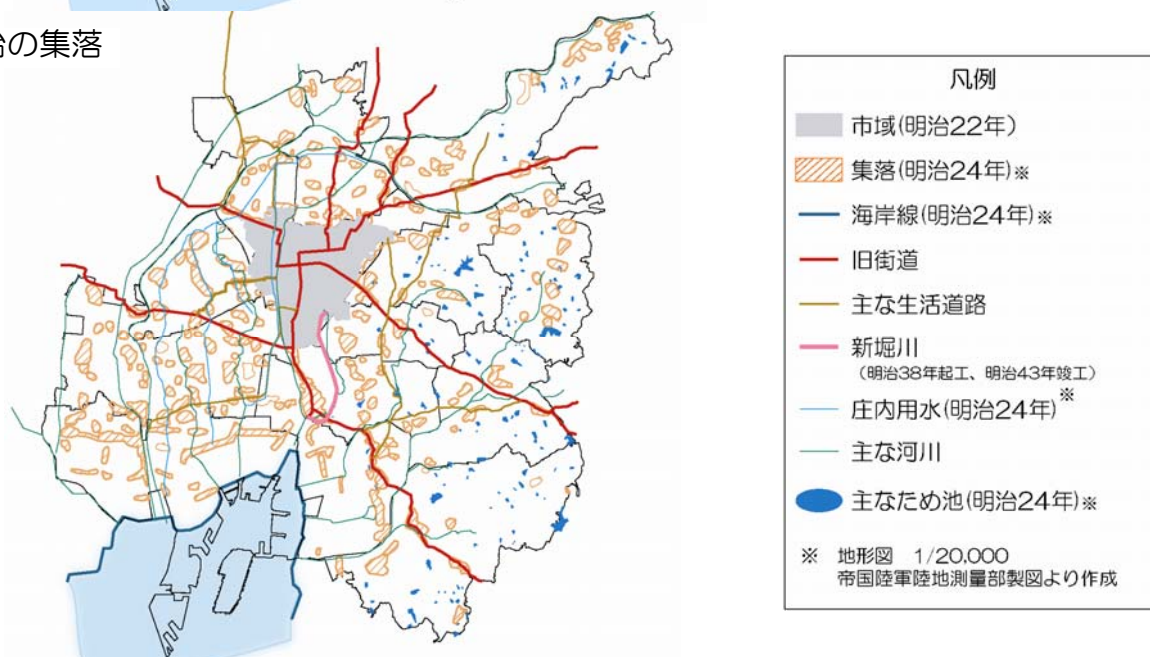
明治時代になると、名古屋駅の開業と市制施行（1889（明治22）年）を契機に鉄道駅とまちを結ぶ幹線道路、路面電車、電気、ガスの整備などの基礎的なインフラが整い、大都市名古屋へ飛躍する基盤ができました。

さらに、名古屋港の開港によって輸出産業都市への基盤ができるとともに、鶴舞公園を会場とした博覧会の実施により都市部の発達が促されました。

明治の都市基盤



明治の集落



◆文明開化で変化する名古屋

- ・名古屋城が陸軍省の所管となり、二之丸御殿や三之丸にあった広大な武家屋敷などが取り壊され、陸軍の施設が建設されました。現在博物館明治村にその施設の一部が移築されています。また、城下北東部の尾張藩下屋敷跡や武家屋敷跡は、江戸期の町割を残しつつ近代住宅や公園、学校などに転換されていきました。市内で最も古い公園である浪越公園（現在の那古野山公園）が建設されたのもこの頃です。
- ・1891（明治24）年にマグニチュード8.2という大きな地震（濃尾地震）があり、名古屋城の石垣等が崩れ、近代的な建築物であった煉瓦造建物の多くが倒壊し、市内に甚大な被害をもたらしました。
- ・明治中期以降、陶磁器が輸出産業の花形の一つとなると、城下北東部の白壁・主税・槇木町筋周辺は絵付けなど輸出向け陶磁器の製造工場や貿易商の事務所が林立していきました。また、城下町の町人地は、碁盤割の骨格は残しつつ、近代の間屋街、繁華街へと衣替えしていきます。



陸軍の施設があった名古屋城（米軍撮影）



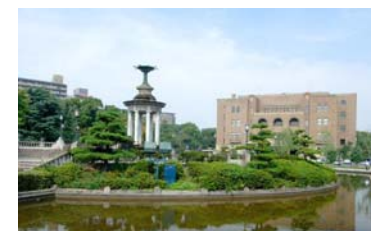
濃尾地震で倒壊した名古屋郵便電信局
（明治24年）市政資料館蔵



名古屋停車場
（明治39年頃）名古屋市交通局蔵



第十回関西府県連合共進会
絵葉書（明治43年）
名古屋市博物館蔵



鶴舞公園（噴水塔）



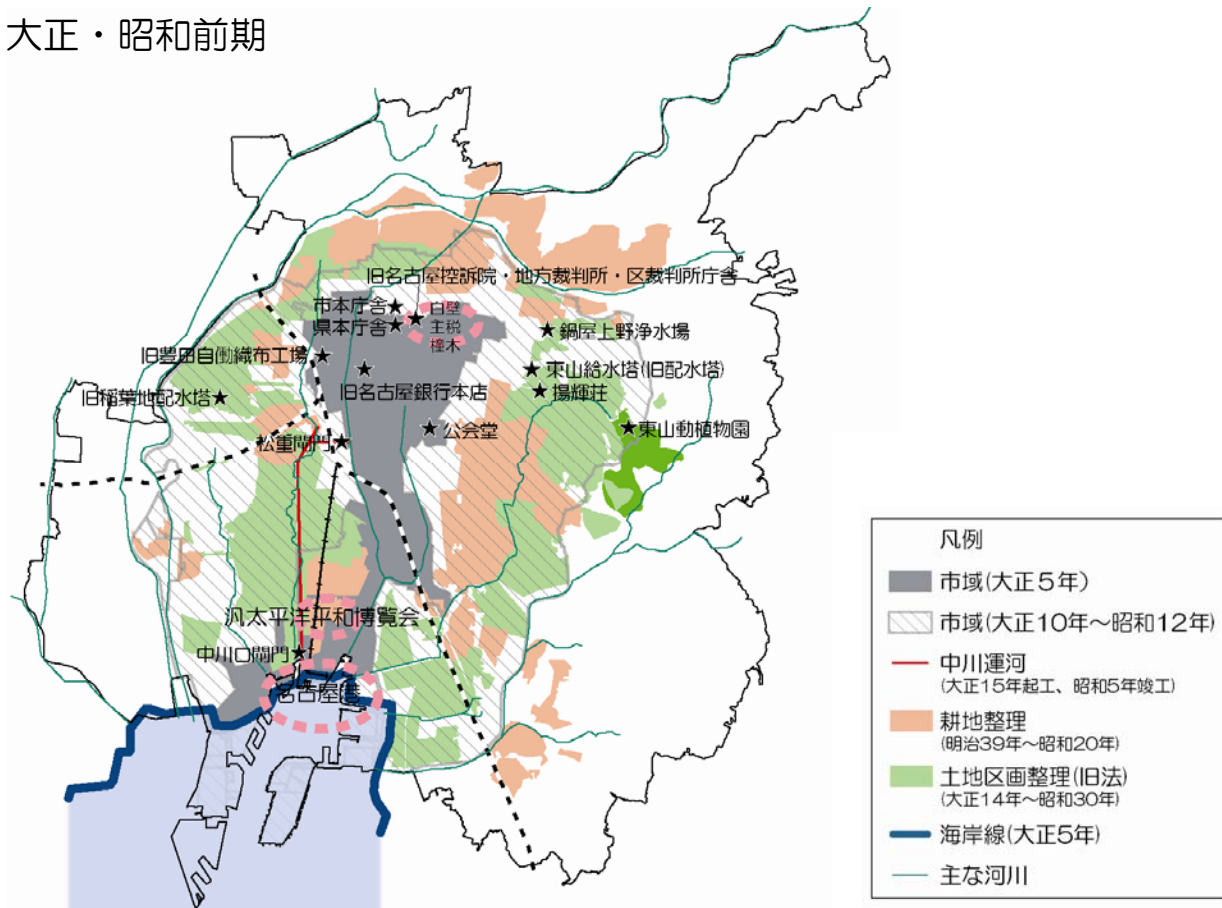
ノリタケの森
（旧日本陶器製土工場）

◆近代都市基盤の芽生え

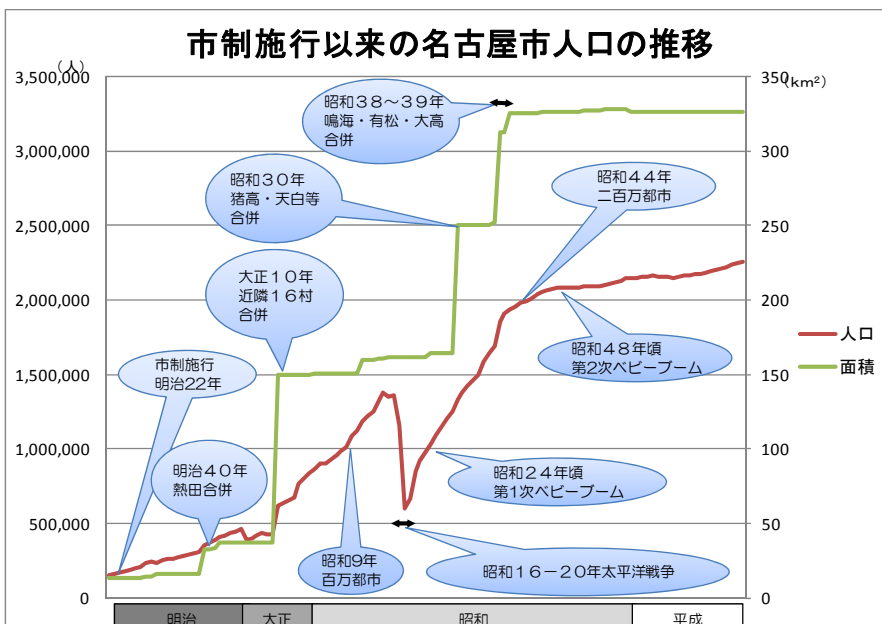
- ・国鉄（現在のJR）東海道線が建設され、1886（明治19）年、現在の笹島交差点付近に名古屋停車場が開業しました。名古屋の東西の目抜き通りである広小路通が都心から名古屋停車場まで延伸しました。名古屋に電灯が灯ったのも、この頃です。1894（明治27）年には広小路通を現在の久屋西交差点から千種駅まで延伸する決定をしました。また、1898（明治31）年には広小路通に国内で2番目の路面電車（笹島(名古屋停車場前)～県庁前(久屋町)）が開通し、都心部の発達を促しました。
- ・1907（明治40）年の名古屋港の開港と合わせ、名古屋港と都心を結ぶ南北の大動脈となる大津通が整備されていきました。名古屋にガスが供給され、広小路通と大津通（栄町から伝馬町通）にガス灯が灯されました。産業発展のために欠かせない運河の整備にも力が注がれ、新堀川（精進川）が開削されました。またその掘削土で鶴舞公園が整備され、開府300年、1910（明治43）年には博覧会（第10回関西府県連合共進会）の会場となりました。
- ・現在、市内に明治期の建造物は多く残っていませんが、この博覧会でつくられた鶴舞公園の噴水塔を始め、旧日本陶器製土工場、旧陸軍造兵廠熱田工場などがあります。

大正・昭和前期の名古屋は、市域の拡大とともに名古屋駅と港を結ぶ中川運河などを中心とした工業地帯が広がる産業都市として開花しました。また、積極的な区画整理などにより宅地化が進みました。この頃には新取の気風をもつ起業家たちが活躍し、洋風のビルや居宅を次々と建設し、城下北東部や広小路・大津通といった目抜き通り沿い、郊外にも当時の建築物が残っています。1937（昭和12）年には戦前最大の名古屋汎太平洋平和博覧会を成功させ、名実ともに産業文化都市として発達していきました。

大正・昭和前期



市制施行以来の名古屋市人口の推移



◆大都市名古屋へ

- ・ 1920（大正9）年に都市計画法が施行されました。同法施行以前からの5大幹線道路を始め、5大幹線運河や公園、用途地域などを都市計画として順次決定していきました。これにより、名古屋の産業発展が促進されました。
- ・ 1914（大正3）年に鍋屋上野浄水場、大正5年に東山配水塔が建設され、市内の一部で給水が開始されました。
1926（大正15）年に中川運河が起工されました。中川運河は、潮の干満に影響されない一定の水位とするため、中川口閘門と松重閘門が設置され、堀川や名古屋港と接続しました。名古屋港から名古屋駅までの水運機能が飛躍的に強化され、一大工業地帯の形成を促進しました。
- ・ 1930（昭和5）年には国内最初の活性汚泥法による堀留・熱田水処理センターが完成するなど、名古屋の近代化を支える都市基盤は着々と整備されていきました。
- ・ 輸出向陶磁器産業で栄えた城下北東部は、貿易商を始め中部の財界を築いた人々も移り住み、優れた近代洋風住宅建築が集まりました。人口増大に伴い新市域において宅地開発が盛んになり、区画整理組合が次々と設立されました。この結果、市域の約半分が計画的に宅地整備され、千種・昭和・瑞穂に新興の近代住宅街が形成されました。郊外別荘の代表である揚輝荘もこのころ建設されました。
- ・ 都心の広小路・大津通には鉄筋コンクリート造の近代建築が次々と建築されました。また、市電の充実とともに沿線では賑わいが増してきました。市本庁舎、県本庁舎などの帝冠様式の公共建築のほか、名古屋を代表する鈴木禎次設計の旧名古屋銀行本店などの近代建築が残っています。
- ・ 1937（昭和12）年に開催した名古屋汎太平洋平和博覧会は、中川運河を掘削し造成した名古屋港臨海部を会場とし、約466万人が来場した、太平洋戦争前最大の博覧会となりました。
- ・ 同年、市電が覚王山から東山公園まで延伸され、東山植物園と動物園が相次いで開園しました。東山植物園の温室は東洋一の水晶宮と呼ばれ、以来市民に親しまれています。
- ・ 市制施行時（1889（明治22）年）約16万人であった人口は、1921（大正10）年には50万人、1934（昭和9）年には100万人を超え、この間に市域面積も約11倍となりました。



文化のみち二葉館
(旧川上貞奴邸)



名古屋汎太平洋平和博覧会
絵葉書（昭和12年）
名古屋市博物館蔵



揚輝荘



鍋屋上野浄水場
旧第一ポンプ所



松重閘門



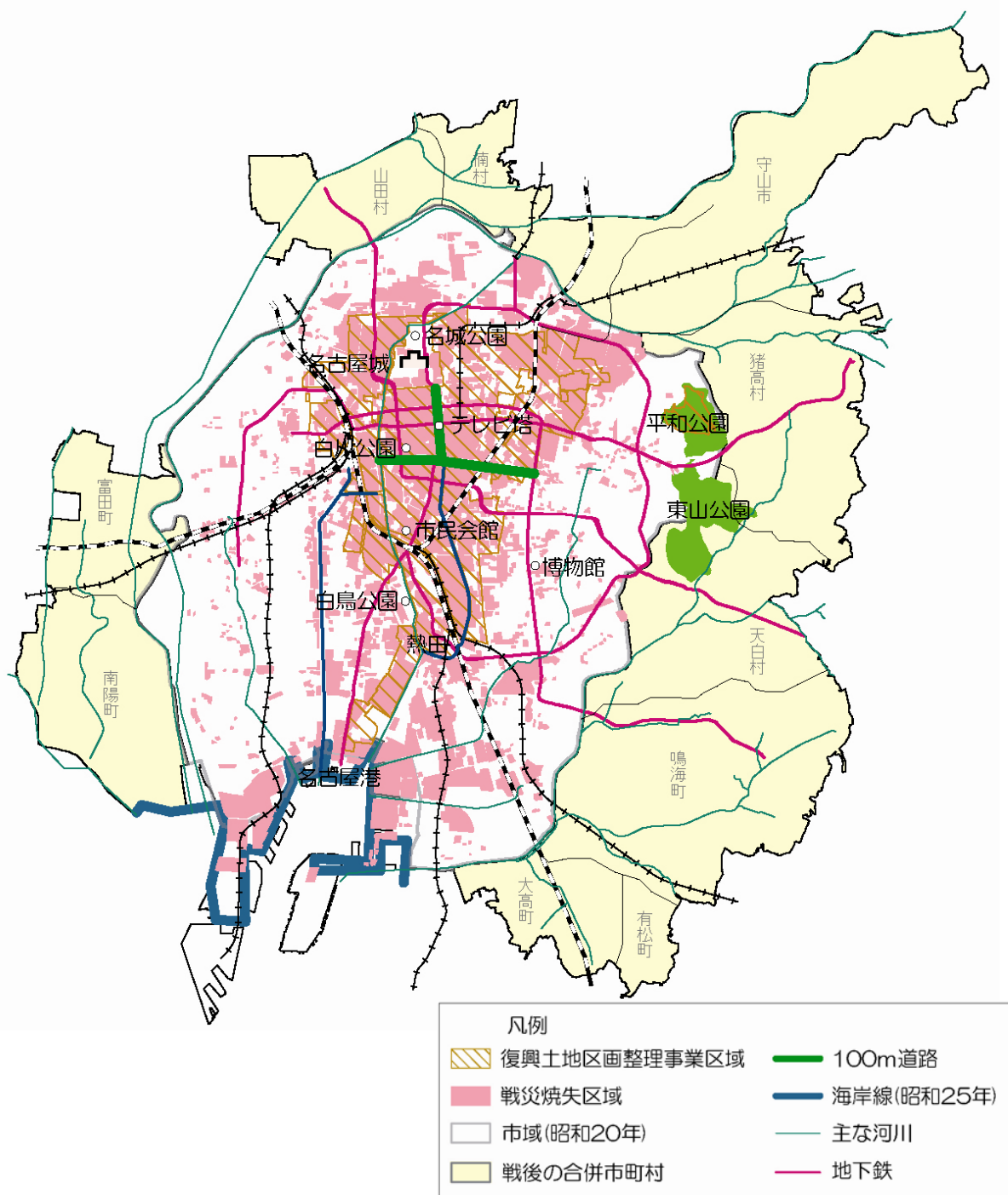
市本庁舎



東山植物園（温室）

(2) 戦災復興と大都市形成期

戦災により当時の市域の約1／4を焼失し、名古屋城（天守閣）を始め貴重な文化財も失いました。しかし、名古屋市はいち早く戦災復興計画を立案し、総力を挙げて復興に向けたまちづくりに邁進しました。市民の協力を得て100m道路や市内の墓地を平和公園に集団移転するなど大胆な都市計画を実現することができました。また、伊勢湾台風など幾多の災害も受けましたが、そのたびに復興を遂げており、その後の地下鉄や高速道路の建設によって更なる大都市名古屋へ成長しています。



◆復興し、成長・成熟する名古屋

- ・ 1945（昭和20）年終戦を迎えましたが、戦災によりまちのシンボルであった名古屋城天守閣を始め、城下・熱田など当時の市域の約1/4を焼失しました。直ちに戦災復興計画を策定し、戦災地のみならず関連地域を含めた大胆かつ先進的な都市計画としました。

【復興都市計画の概要】

1945（昭和20）年に戦災復興計画、1946（昭和21）年に復興都市計画を策定し、100m道路（久屋大通と若宮大通の幅員約100mの道路）を始め、幅員50mの主要幹線道路などを格子状に配置した道路網が整備されました。また、碁盤割の地割を活かした商業地区として機能を高め、高度利用が図れるようにするため、地割周囲の道路を広幅員とする区画整理を行いました。

新たに名城公園、白川公園、久屋大通公園、若宮大通公園等の大規模緑地公園、1学区1公園を目標とした小学校と隣接する公園が整備されました。また、都心からの墓地移転により墓地と公園が一体となった平和公園が整備されました。

- ・ 1951（昭和26）年日本初の民間ラジオ放送が名古屋で開始されました。1954（昭和29）年に高さ180mの日本最初の集約電波鉄塔（テレビ塔）が建設されました。当時日本一の高さを誇りました。
- ・ 高度経済成長期を迎え、名古屋の産業構造は従来の工業中心の都市から、名古屋大都市圏の中核機能、流通・サービス機能を担う第3次産業中心の都市へと転換していきました。また、人々の生活を支えた商店街も発展していきました。
- ・ 錦通など広幅員の道路が復興土地区画整理事業のなかで確保され、1957（昭和32）年に名古屋～栄間で地下鉄が開通しました。それと同時に地下街の建設も進み、名古屋で最初の名古屋地下街（現サンロード）が開業しました。
- ・ 1959（昭和34）年9月に伊勢湾台風が襲来し、市の南西部は大きな被害を受けました。これを教訓に防災まちづくりが進められました。また、同年10月、市民の寄付を受け鉄骨鉄筋コンクリート造により名古屋城天守閣が再建されました。
- ・ 昭和30年代に周辺市町村を合併し、市域が拡大され、1969（昭和44）年には、人口200万人を超える大都市に成長し、それを記念し市民会館や博物館が建設され、市民文化施設が充実していきます。
- ・ 市制100周年を記念してデザイン都市宣言をし、1989（平成元）年に世界デザイン博覧会が名古屋城・白鳥・名古屋港を会場に開催され、約1518万人が来場しました。
- ・ 2002（平成14）年、ごみ減量のきっかけとなった藤前干潟がラムサール条約湿地に登録されました。
- ・ 2005（平成17）年、自然の叡智をテーマとして121カ国4国際機関が参加した愛・地球博（2005年日本国際博覧会）が開催され、2205万人が来場しました。
- ・ 2008（平成20）年、名古屋城本丸御殿の復元が始まり、2010（平成22）年、開府400年を迎えました。



戦災直後の都心（米軍撮影）



名古屋城（再建）



テレビ塔と100m道路



平和公園



世界デザイン博覧会
（白鳥会場）
世界デザイン博覧会公式記録より